

## 情勢報告

## 第一回普及推進協議会で意見交換



平成22年6月24日(木)田野町ふれあいセンターで、農業改良普及推進員(以下、推進員)20名の参加を得て、第一回農業改良普及推進協議会を開催した。H22年度の農業改良普及課の活動体制、計画、重点課題や産業振興計画の取り組みについて説明をおこなった。その後、各課題について推進員との意見交換を行った。

「まとまりのある産地づくりはやっていかないとだめだ」、「今まではJA(産地)が量販店と一緒に売場を作ってきた。土佐鷹は今後どう展開していくかにかかっている」。集落営農では「米は委託したいが、委託すると経営的に合わない」などの意見が出た。

今後一年、今回の推進員からいただいた意見を参考に、目標達成に向け活動していく。

## さあ、今年こそ天敵をつかってみよう～赤野地区天敵講習会～



7月16日(金)に赤野集出荷場研究会が初心者向けの天敵講習会を開催し31名の生産者が参加した。赤野地区は天敵導入率が管内他地域に比べ低いものの、近年急速に土着天敵利用についての関心が高まっている。天敵温存用のゴマの播種に適したこの時期に、振興センターが呼びかけて開催した。日ごろ部会への参加が少ない農家も見られ天敵への関心の高さが感じられた。集出荷場よりエコシステム栽培についての説明を行った後、振興センターがタバコカミカメのゴマを使った温存・放飼方法などについて講習した。農家同士で、「おまんはいつごろ放飼する？」など経験者と情報交換をする様子も見られた。

振興センターでは、定植後も現地検討会などで情報提供を行い天敵の利用を進めていく。

## 土着天敵活用に取り組むナス生産者グループを支援～室戸市羽根地区より～



農薬の取り扱いが難しいな

7月16日、振興センターでは、JA土佐あき羽根支所管内で土着天敵を利用したIPM技術に取り組んでいるナス生産者グループを対象に、土着天敵の技術講習会を実施した。羽根支所管内では2グループ(エコシステム導入農家12戸、深層水なす栽培農家27戸)が取り組んでおり、16名が参加した。「天敵昆虫への展着剤の影響は?」、「失敗した事例の問題点はどこであったのか?」など多くの意見が出された。振興センターはJAと連携して同様な研修会を今後とも開催しながら、土着天敵を活用した害虫防除対策の確立を目指す。